

2012年6月 林英明様（山梨大学医学部4年）

2012年6月8日に見学させて頂きありがとうございました。桜新町アーバンクリニックの在宅医療往診同行について感想を書きます。

遠矢医師、同行させて頂いた西田医師・看護師と患者の会話を聞いて、患者にとって通院ではなく自宅で医療を受けられることの良さがとても大きいことを初めて知った。通院や病院でのストレスがそれほど大きな負担だとは、私は考えたことがなかった。病院の環境・医師の態度など何が主な原因なのかよく分からないが、通院する理由や若年層・中高年層での違いにより感じ方に差があるものなのかと思った。また、私は高齢者に対する在宅医療について、家族の介護があって初めて成り立つものだと認識していた。そして、現在の状況もそうなのだという印象を受けた。介護を行う家族の生活の質を維持することが、在宅医療の問題点の1つなのだと感じた。患者の状態、家族の生活・意向は様々であるので、難しい問題だと思う。今後増加するとされている認知症の患者ではより難しい課題だと思う。これから増えていく高齢者に対する医療では、本人に対する治療や予防に加えて、介護者に対する支援も必要なのだと知ることができた。本人ではなく、周囲の負担の軽減という意味では、妊婦や新生児の母親に対する支援システムが、解決策模索の1つのヒントになるかもしれないと感じた。あるいは、その逆もあるかもしれない。介護者の負担軽減という、私にとっては新しい視点を得ることができ、在宅医療の同行は良い体験であった。

医療において、治療法以外にもより良いものにすべき点が数多くあることを実感した。現在の日本の医療レベルを考慮すると、寿命を伸ばすための治療法の研究開発よりも、医療サービスの質を高める試みの方が、患者の幸せのために大きく貢献できるのではないかと感じた。現在、私は、大学の授業以外に研究室に所属して、慢性疼痛の研究をしている。基礎医学研究なのでマウスしか扱わない。実際の患者の状況もよく勉強しようと思った。また、将来は画像診断医になるつもりである。この分野の治療以外の面についてもよく勉強しようと思った。